

## 小学生の部 特選

飛騨市立古川小学校 六年 古田 志織

私は、今回のコロナ禍で家族のきずなが深まったと感じています。

三月に新型コロナウイルスの感せん拡大で学校が休校になり、毎日家にいるようになりました。最初は休みになってうれしい気持ちがありました。が段々とそんな日常にいや気がさしてきました。そんなとき、お父さんやお母さんは、私たちが少しでも楽しめるように、いろいろと計画してくれました。朝ご飯を気分転かんにベランダで食べたり、家のちゅう車場で遊んでくれたり、公園へつれていってくれたりしました。さらに、いつも学校へ行っていて気がつかない家事を、もくもくとこなしてくれているお母さんの姿にも気がつきました。それから、ベランダの植物の水やりや洗たく、ご飯作りの手伝いなどを自分から手伝うことにしました。

休校が終わっても、県外そして市外にまで出られない状況ようが続きました。その中、少しでも楽しめるようにとお父さんが、すぐろく川に何回もつれていってくれました。そして、松ぼっくりで火をつけて、お湯をわかし、そのお湯で飲み物を飲もう、と提案してくれました。最初は「何をしようとしているのかな。」と不思議に思っていたけれど、松ぼっくりをひろついているときや、家族五人で飲み物を飲んでいるときに、他愛のないおしゃべりで笑いあったりし、家族で過ごす時間の楽しさが分かりました。

今回はとつ然の出来事でしたが、家族の大切にさについて考えることができました。何かあったら支えあえる家族がいて、本当に良かったと思えました。たまに意見がすれちがったりしてけんかになることもあるけれど、こんな状況ようの中でも、何かを楽しく行うということができたのは、家族のおかげだと思っています。これからは、家族に支えられるだけではなく、その家族を支え、おたがいに支えあえる関係をつくっていききたいです。